一般社団法人　福岡県助産師会　　2026 年（令和 8 年）11 月
～ つながるいのち　ひと　組織 ～

ニュースレター No.92

会長挨拶

一般社団法人 福岡県助産師会 会長　佐藤香代



朝夕の冷え込みに、秋の深まりを感じる季節となりました。

会員の皆さまには、平素より福岡県助産師会の活動にご協力を賜りお礼申し上げます。

熊本地震や千葉豪雨により被災された皆さまに、心からお見舞い申し上げます。相次ぐ自然災害に、災害への備えを日々の暮らしや活動の中に位置づける必要性を改めて感じています。妊産婦や母子、そのご家族を支援する私たち助産師は、平時からの備えと地域との連携を大切にしていきたいと思います。

さて、本年度の事業は、皆さまのご尽力により順調に進んでいます。事業の拡大に伴い、7 月から専任の事務職員 2 名を雇用し、円滑な運営に向けて事務体制の充実を図っています。

本年度、新たに受託した福岡市の「集合型産後ケア事業」は、7 月から 8 月のモデル実施を経て、9 月 1 日から本格実施となりました。この事業の目的は、複数の母子が 1 つの場所に集い、助産師のケア・教育を受けるとともに、参加者同士の交流や情報交換を通して、母子の孤立を防ぐことです。参加された方々からは高い評価をいただいており、今後も継続して取り組む予定です。また、他市での次年度実施に向けた準備も現在行っています。さらに、福岡市から新たに受託した事業「多胎児を持つ妊婦と家族へのマタニティスクール」を 11 月から開始することになりました。多胎妊娠は、福岡市で年々増加しており、本年度は 2%を占めています。さまざまな不安を抱えている妊婦とその家族が、安心して出産・育児を迎えられるようサポートしていきたいと思います。

当会の会員数は毎月増加し 10 月現在で 399 人となりました。私が会長に就任した 7 年前と比較すると倍増しています。とりわけ、地域で活動しさまざまな事業に携わる助産師が増えていることを心強く感じています。事業の拡がりと会員の増加は、当会の活動を支える大きな力です。同時に、地域から寄せられる期待と、組織として担う責任の重さを改めて受け止めています。一つひとつの事業を丁寧に進め、安心して支援を受けられる体制を整えるとともに、会員の皆さまが力を発揮できる会の運営に努めてまいります。

これからも女性と子ども、そしてご家族の健やかな暮らしを支える活動を通して、本会のさらなる発展に取り組んでまいります。引き続きご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

委員会　活動

災害対策委員会委員長　山田葉子

災害対策委員会では、日頃からの備えを強化するため様々な取り組みを行っています。
7 月 11 日の理事会時には「避難訓練」を実施し、役員を中心に非常時の避難経路や基本動線の確認を行いました。参加者からは「実際の動きを確認できたことで非常時の行動イメージや防災意識がより高まった」との声が寄せられました。
また、7 月 28 日に発生した熊本県の地震災害に際しては被災地支援に向けた災害派遣ボランティアを会員へ募集したところ、11 名もの迅速な応募をいただきました（現時点で派遣要請はありません）。有事の際に協力できる体制と会員の皆様の高い志が確認できたことは大きな成果と感じております。12 月には全会員を対象とした「安否確認訓練」を予定しています。今後も迅速な初期対応と連携体制の確立を目指してまいりますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。





組織強化委員会委員長　瀬口絵美

2026 年度　国際助産師の日
助産師と学ぶ！子育て中のあなたが今日からできる『いつもの備え』
～自分と周りの大切な人を守るために～

12 月 12 日（土）に国際助産師の日のイベントを開催いたします。
今回は助産師として専門知識を持ち、自らも被災経験を持つ熊本大学大学院教授、跡上富美先生を講師にお迎えします。東日本大震災では自ら被災しながらも支援活動を行われていました。被災者および支援者の経験を踏まえて、母子支援や助産師の役割について、また災害時における備えについてお話しいただきます。
もしもの時に、今日からできる備えについて考えてみませんか？



安全対策委員会委員長　髙橋よし恵

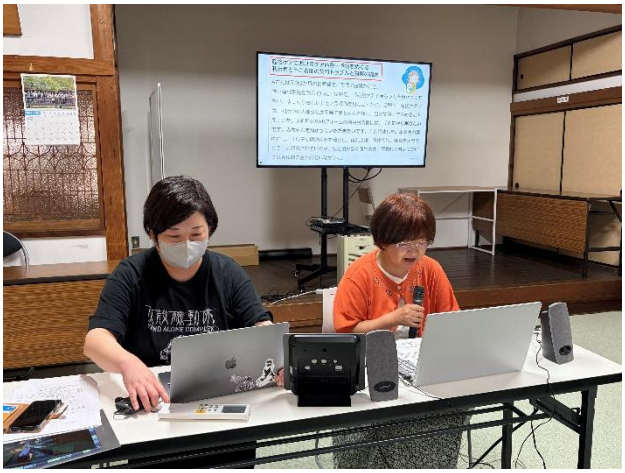
8 月 2 日に第一回安全対策研修会を開催致しました。助産師会館での対面と Zoom のハイブリット形式で行い、対面 8 名、Zoom23 名の方にご参加いただきました。今回は、安全対策委員により、インシデント・アクシデント報告の意義と活用についての説明や、当会において昨年度報告のあったインシデント・アクシデント報告の集計結果および分析について情報共有を行いました。また当会では、インシデント・アクシデント報告を、より行いやすくするため「IPPOU」というシステムを作成中であり、参加者の方にはそのシステムを実際に操作していただきました。

さらに、架空事例を用いたグループワークを行い、各施設の取り組みを共有する有意義な場となり、参加者の満足度も高い研修となりました。

今後も、インシデント・アクシデントを報告しやすい雰囲気を作るとともに、予防啓発に努めてまいります。

第 2 回の安全対策研修を 1 月に予定しております。次回もぜひご参加お待ちしております。





三部会報告

助産所部会長　髙橋よし恵

9 月 26 日に第 2 回助産所部会・研修会を開催致しました。助産師会館での対面と Zoom のハイブリッド形式で行い、対面 9 名、Zoom 1 名の部会員が参加しました。

部会では理事会の報告の他、部会員の意見交換を行いました。部会終了後、1 施設の安全管理の他者評価を行いました。助産所部会では、毎年順番に施設の他者評価を行い、安全管理体制の維持に努めています。

研修会は「予定日超過」と「前期破水」のそれぞれ 1 事例をあげ、事例検討を行いました。助産所では薬を使わずに、産婦さんの「産む力」を引き出し、自然なお産へ導くケアに力を注いでいます。他施設の具体的な対応や工夫を聴くことができ、学びの多い有意義な会となりました。

人数の少ない部会でありますが、今後も協力し合って学びを深め、妊産婦さんに、よりよいケアを提供していきたいと思っております。



保健指導部会長　福田睦美

8 月 22 日、福岡県助産師会館にて研修会「地域に選ばれる産後ケア事業のつくり方～保育事業と助産院運営から見える母子保健事業の実践～」を、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。

講師にクレイドルハウス(福岡市城南区)理事長の巖水瑠華氏、助産師の伊藤陽子氏をお迎えし、対面 9 名、オンライン 32 名、計 41 名の皆さまにご参加いただきました。

こども園の園長を務めながらクレイドルハウスの経営にも携わる巖水氏からは、助産院と保育の連携や経営者としての視点を、伊藤氏からは助産師目線での支援や運営の実際を伺い、目から鱗のお話をたくさん聞くことができました。

研修終了後には、お弁当持参のランチ交流会を行い、講師のお二人と会員 7 名が参加しました。少人数だったからこそ会話が弾み、研修の内容にとどまらず、さまざまな情報を伺うことができました。





【保健指導部会の皆さまへのお願い】

保健指導部会では現在、メーリングリストで連絡を行っています。部会員約 160 名のうち、すでに 100 名を超える方(およそ 3 分の 2)が登録済みです。

まだ登録がお済みでない方は、fukuokajosan.hokenshidoubu@gmail.com からの案内メールが迷惑メールフォルダに入っていないか、ご確認をお願いいたします。
ご不明な点がございましたら遠慮なく上記アドレスまでご連絡ください。

産後ケア事業の現状

妊娠・出産包括支援委員会委員長　村田愛

先般は受託者基礎情報調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。
委員会では、自治体から事業を受託し会員の皆様へ再委託を行う本会の責任として、受託要件の確認や最新情報の集約を行い、ケアの質と安全を確保する仕組みを整えるとともに、行政や地域社会の皆さまから確かな信頼を得られる事業体制の構築に取り組んでおります。

現在、次年度に向け県内市町村との委託契約に関する協議を進めております。現場でご尽力いただいている会員の皆様に適切な対価が還元され、母子と家族に必要な産後ケアを安定して提供できるよう、2 つの方針を掲げています。1 つ目は、事務コストを明確に分離し現場の委託料を保護するための「事務運営管理手数料」の提示です。2 つ目は、地域による委託料格差を解消し、適切な単価基準の一律化を図ることです。

自治体によって財政事情等の理由から受け入れが難しいとの回答をいただいておりますが、当会からは客観的な積算根拠を提示し、実情に伴わない単価設定により、現場の受け入れ枠縮小やケアの質低下につながるリスクを示し、客観的な観点から再検討いただくよう協議を重ねてまいりたいと考えております。

会員の皆様の専門性と担う役割に見合う対価が確保され、安心して産後ケアに取り組める環境を整えるべく取り組んでまいります。

引き続き、委員会活動へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

福岡市マタニティスクール報告

マタニティスクール担当　塩山知世

今年度もあっという間に半分を過ぎ、下半期を迎えました。
いよいよ福岡市の新規委託事業「ふたご以上の赤ちゃんを迎えるママとパパのためのマタニティスクール」（今年度全 2 回）がスタートいたします。
多胎妊娠においては単胎妊娠に比べて母体への負担や育児環境など、ともすると「大変な部分」や「不安」に目が向きがちです。本スクールでは、専門的な学びや交流を通じて「多胎児の妊娠・出産・子育てを前向きに捉え、新たな家族を楽しみに待つことができる」ように、安心感と見通しを持てる支援をめざしています。
会員の皆様のお近くに該当する妊婦さんやご家族がいらっしゃいましたら、ぜひ本スクールへのご参加をお勧めいただき、周知へのご協力をお願い申し上げます。
詳細はホームページをご覧ください。



電話相談事業

SOS 電話相談・パパ相談ダイヤル担当　新地裕子

「子育ても、相談も、根気強く」
SOS 電話相談は、3 年目、パパ相談ダイヤルは、2 年目を迎えました。
相談者様のお役に立てるよう相談員一同努力しております。今回は子育て相談についての話です。令和 7 年度の子育て電話相談は 608 件ありました。特に、育てにくいと感じるお子さんの子育てに奮闘されている方からの相談が多いです。時間は、1 時間近くかかることもありますが、相談員は、しっかりと話を聞いています。
ある方は、色々困り事を聞いていく中で、アドバイスを求めているのではなく、頑張っている自分を認め、褒めて欲しかったと泣かれました。どこに行っても自分の子育てを認めてもらえず、孤独で辛かったようです。いままで表出できなかった感情を、じっくり話を聞いてもらうことで、吐き出すことができたようです。子育ても、相談も、根気強さが必要ですね！



包括的性教育

包括的性教育委員会委員長　道園亜希

助産師が伝える包括的性教育・いのちの教育　連続研修
毎年ブラッシュアップされる充実した研修内容！

5 月にスタートした本研修も、無事に第 6 回目までを終えました。前半は、助産哲学に加え包括的性教育のコアとなる概念を深く学び、9 月からは各ライフステージにおける包括的性教育の概要及び実践に関する学びに入りました。

本研修は 3 年目となりますが、各講座は初年度より委員会のメンバーが担当制で実施しています。実は毎年同じ内容…ではなく！何度も何度も会議を重ね、より学びの深い内容にブラッシュアップしているのです。というのも、委員会メンバーは各個人が包括的性教育のスペシャリスト。日々の実践、児童・生徒達の反応、自身の気付きを講座の中にたくさん盛り込んでいます。そのため、受講者の感想にも「実践的な方法を学べてよかった」「より具体的にイメージができた」という言葉が多く並んでいます。さらに私たちの研修の特徴は、「聞いて終わり」ではないことです。必ずシェアタイムを設け、感じたこと、考えたことをアウトプットし、受講者同士の気持ちや考えにも耳を傾けます。そうすることによって、より大きな学び、気付きの機会となるからです。

今後は中高生、大学生、更年期…とライフステージごとの包括的性教育とすすんでいきます。受講予定の皆さま、楽しみにしていてくださいね！また、このニュースレターを読んで興味を持ってくださった方がおられましたら、ぜひご受講下さい！委員会メンバー一同、皆さまと共に包括的性教育の学びを深められることを楽しみにしております。





プレコンセプションケアセンター

福岡県プレコンセプションケアセンター　コーディネーター　髙杢裕子

最近のプレコンセプションケアセンターの相談事情　～　あなたならどう答えますか？～

　プレコンセプションケアセンターに相談される相談内容が徐々に深刻化してきています。
例をあげてみます。

〇娘を持つ母親からの相談で、娘の月経が近づくと自分を殴る・蹴るの暴力があり、月経がおさまると「ごめん」と誤ってくる。母親は離婚し心療内科に通院している状況での家庭内暴力。PMS で起こっているのではないか、ピルを飲めばおさまるのではないか。と訴えあり。

〇乳がんと診断された４０代の女性が、妊孕性の温存について相談したいと面談に来られる。
持病があり、両親との関係もうまくいっていない。ネットや書籍から、乳がん・妊孕性温存治療についての情報収集を熱心に行っており、本州の大学病院にも電話で相談した経緯がある。現在は乳腺外科に通院中。

〇15 歳女子。避妊をしない性的接触があり、その後の出血について「月経なのか、妊娠に伴う出血なのか分からない」と不安になり相談。月経予定日頃から少量の出血が続いていたが、約 10 日後に避妊をして性行為をした際にも一時的に出血がみられた。その後は出血がみられなかったため、「妊娠している可能性があるのではないか」と心配している。体調に大きな変化はなく、学校やアルバイトなど、普段どおりの日常生活を送っている。

　一回の電話では解決しない、児童相談所や警察、行政とも連携したほうがよいケースも増えてきています。相談員は全員包括的性教育の研修を受け、認定登録を行った人たちで、非常に助かっています。しかし、このような事例に対応するため、今も自己研鑽に励んでいます。１回/月に学習会、事例検討会を行い、「あの対応でよかったのか」と振り返っています。特に電話での相談は、相談員も考え・判断する時間が少ない中での対応に、プレッシャーがあります。
　相談してよかったとのお言葉をいただくことが何よりの励みです。

宗像地区活動報告
「子どもと家族の健康のための食育」

宗像地区理事　石山さゆり

　9 月 27 日、日本赤十字九州国際看護大学にて宗像地区研修会を開催し、子どもから高齢者まで 28 名が参加しました。
　第 6 回野菜ソムリエアワードで金賞を受賞された、野菜ソムリエプロのなかしまゆみさんを講師にお迎えしました。食育マイスターなどの資格を有し、子ども向け食育やレシピ開発など幅広く活動されているなかしまさん。野菜やくだものの栄養素、地産地消について、身近な食材を例に分かりやすくお話しいただきました。野菜への深い愛情と熱意に引き込まれ、60 分があっという間に感じられる充実した時間となりました。

日頃何気なく食べているものを意識して選ぶこと、地域で育ったものをいただくことの大切さを実感し、今日からの食生活に活かせる多くの学びがありました。子どもたちや子どもを見守る大人にも食に興味を持ってもらい、健康につながる食生活を送ってほしいと思います。アンケートでは「すぐに生活に活かせる内容だった」「野菜を意識して少しでも多く摂りたい」「食生活を見直し、健康になりたい」などの声が寄せられ、皆さんの関心の高さがうかがえました。今回の研修会が、日々の「食」や健康を見つめ直すきっかけとなれば幸いです。





【開催報告】賛助会員セミナー「腸内環境ケアセミナー」

書記　阿部聖子

2026 年 9 月 17 日（金）に、オンライン（Zoom）にて賛助会員セミナー「腸内環境ケアセミナー」を開催いたしました。当日は全国から多くの方にお申し込みいただき、申込者 69 名、受講者 56 名の盛況となりました。

3 回目になります今回も B&S コーポレーションの貴家康尋氏を講師にお迎えし　「助産師が知っておきたい 母子の未来を育む 腸内環境ケア」をテーマにご講演いただきました。妊娠・出産から乳幼児期に至るまでの母子の健康と腸内環境の密接な関係について、妊娠期における腸内細菌叢の変化や代謝物質の重要性、母乳を通じた免疫や細菌の継承、そして子どもの将来の健康を左右する「生後 1,000 日（妊娠期間 300 日＋産後 700 日）」の重要性等を深く学ぶ貴重な機会となりました。

受講後のアンケートでは満足度が約 90%に達し、「妊娠中からの腸活が子どもやメンタルに与える影響を改めて実感した」「妊産婦への指導に活かしていきたい」といった多くの前向きな感想が寄せられました。

ご参加いただいた皆様、ご協力いただいた関係者の皆様、ありがとうございました。今後も、会員の皆様の臨床やケアに役立つセミナーを企画してまいります。

会計からのお願い
（会費支払い方法の統一について）

会計　山口美津枝

【重要】会費徴収方法変更（全会員　口座振替化）のお願い

会員の皆様におかれましては、日頃より当会の活動にご協力いただき感謝申し上げます。
現在、銀行振込による会費納付において**「振込名義人と会員名の不一致」**や**「照合作業・個別連絡による事務負担の増大」**が発生しており、年度末の会計処理に甚大な支障をきたしております。

つきましては、**会計業務の効率化と適正化を図るため、次年度会費よりすべて「口座振替」での徴収に一本化させていただくこととなりました。**

口座振替未登録の会員の皆様（現在 92 名）へは、順次**「口座振替申請書」**をお送りいたします。お手元に届きましたら、速やかに手続きを完了していただきますようお願いいたします。スムーズな会運営のため皆様の、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

会員からの投稿記事募集

広報･渉外委員会委員長　藤木久美子

会員の皆さまからの投稿を募集します！

ニュースレターでは、会員の皆さまの日頃の活動や実践、地域での取り組みなどをご紹介する「会員投稿記事」を募集しています。
助産師として取り組んでいること、地域での母子支援、研修や学会での学び、新しく始めた活動、日々の実践の中で感じていることなど、会員の皆さまに伝えたい内容をぜひお寄せください。
「こんな活動をしています」
「皆さんに知ってほしい取り組みがあります」
「この経験を会員の皆さんと共有したい」
そんな身近な話題も大歓迎です。
ニュースレターを、助産師会から情報をお届けするだけでなく、会員同士がお互いの活動を知り、学び、つながることのできる場にしていきたいと考えています。
皆さまからのご投稿を、広報・渉外委員一同、心よりお待ちしております。

〔掲載内容例〕
・助産師としての実践や活動
・地域での母子・家族支援
・職場や施設での新しい取り組み
・研修会、学会等で得た学び
・地域活動、ボランティア活動
・会員の皆さまに紹介したい情報　など


私たちは、働く皆様を
「快適な眠り」で支えます。
東洋羽毛
睡眠セミナー無料サービスのご案内
よく眠った人には、かなわない。
睡眠セミナー講師を無料で派遣いたします
《お役に立てる主な研修》
医療安全対策研修 睡眠不足とヒューマンエラーの関係や、交代制勤務における睡眠のコツなど
学校保健委員会 「学力」や「部活動」、「スマホ・ゲーム」と睡眠の関係
高齢者の睡眠ケア 高齢者の睡眠マネジメントやこれだけは知ってほしい生活習慣
東洋羽毛九州販売株式会社 福岡営業所
〒812-0062 福岡県福岡市東区松島1-15-28 0120-104-557


陣痛緩和ツール
NEW
OSITE オシテ
テニスボールより
力をいれやすい
持ちやすい
ポンパって
hasejun
長谷川 潤一 先生 監修
株式会社 未来
03-5148-1007 m-mirai.co.jp/


ママと赤ちゃんのコンビニエンス
・●● 産科用品の自動販売機 ●●・
院内サービスショップとして
24時間いつでも利用していただけます。
GLORY
AE-20V
● 1台で90品目販売、豊富な品揃えができます。
● 販売価格は5,000円まで。もちろん、千円紙幣も使えます。
● 売上集計もワンタッチで。ジャーナル印字も行えます。
陳列コラムを
回転させながら
商品が
選べます
投入金額以内の
陳列コラムの扉を
1つだけ開けて商品
を取り出せます
外形寸法:(W×D×H)
800×685×1830mm・重量150kg
企画・発売元
SEBE セベ産科用品株式会社
〒812-0016 福岡市博多区博多駅南4丁目11-11 TEL(092)472-4316


産褥社（胎盤処理）
〒811-1313
福岡県福岡市南区日佐3丁目
34-16
TEL： 092-581-6588
代表： 村上 士朗

ホームページ会員登録のお願い

会員登録がお済みでない会員におかれましては、登録をお願いいたします！

手順は、【福岡県助産師会 HP】➡【助産師の方へ】➡【会員登録について】➡【会員登録フォーム】に必須事項の入力となります。

これまで日本助産師会事務局から福岡県助産師会会員の皆様への情報提供手段として、地区理事や各部会長を通して伝達しておりましたが、2022 年 9 月より福岡県助産師会ホームページ内【会員ページに掲載することになりました。会員ページにログインされますと、観覧制限しているページを見ることができます。

会員募集

一般社団法人 福岡県助産師会では、会員を募集しております！！

ご友人や職場の方をお誘いし、一緒に活動してみませんか？
入会をご希望される方は、下記 QR コードより福岡県助産師会ホームページにアクセスし、
【助産師の方へ】⇒【入会案内のページ】にお入りください。
または、下記担当者への連絡をお願いいたします。

【福岡県助産師会 会計　山口美津枝】
住所：〒807-1134
北九州市八幡西区茶屋の原 4 丁目 1-12
電話：090-9607-3331
メールアドレス：3enyanko@gmail.com

おひとりでも多くの皆様の入会を心よりお待ちしております。

【編集後記】

今回も多くの皆さまのご協力により、第 92 号をお届けすることができました。

原稿を拝見しながら、病院や助産所、地域、教育・相談の場など、それぞれの場所で助産師が力を発揮し、人と人とのつながりを大切にしながら活動していることを改めて感じました。

ニュースレターが、普段はなかなか知る機会のない会員同士の活動を知り、「こんな取り組みがあるんだ」「私も参加してみたい」と感じていただけるきっかけになれば嬉しく思います。

今後は、会員の皆さまからの投稿記事も広く募集してまいります。日頃の実践や地域での活動など、ぜひお気軽にお寄せください。次号も、皆さまと一緒につくるニュースレターを目指してまいります。

広報・渉外委員　　藤木・石橋・伊与田・山村・阿部

一般社団法人 福岡県助産師会 ニュースレター 第 92 号　2026 年 11 月
発行人　一般社団法人 福岡県助産師会 会長　佐藤 香代

〒810-0014　福岡県福岡市中央区平尾 1-3-41
電話・FAX　092-521-2025　https://jyosanshi.net